
所 属 : 国際学部

職・氏名 : 講 師 斎藤 祥平

U R L :

研究キーワード : ロシア、ユーラシア主義、亡命ロシア人

■研究テーマ

ユーラシア主義者を中心とした亡命ロシア人の史的研究

現代において、ユーラシア主義という思想は「ロシア」より広い「ユーラシア＝旧ソ連地域」といった影響圏を主張するロシア・ナショナリストや、ヨーロッパとアジアの架け橋としての役割を主張する中央アジアやトルコの政治家や知識人によって主張されています。とりわけ、プーチンらロシアの政治家や知識人層はヨーロッパとアジア双方における国際関係・外交政策を常に考えなければならないため、ユーラシア主義に強い関心を示しており、今後のロシアの方向性を探る上で重要な思想となっています。この思想の起源は1917年のロシア革命後に各地へと渡っていった戦間期の亡命ロシア人による思想運動にあります。本研究はヨーロッパにおいて、同思想が人種主義に対抗するプロパガンダとして、ドイツのナチズムとの対決に利用されたこと、一方のアジアにおいて、日本統治下の満洲における「五族協和」形成の文脈で日本の汎アジア主義と衝突したことを明らかにしました。つまり、ロシア・ソ連に加え、「ユーラシア」の両端であるヨーロッパとアジアの双方で亡命ロシア人が果たした役割を、ユーラシア主義の各地における受容を例に実証してきました。

■研究テーマの応用例

本研究は亡命ロシア人を例に、いわゆる「マイノリティ」としての存在が国家・地域の狭間で、また時代を超えて重要な役割を果たしてきたことに着目しています。難民、戦争捕虜、エスニック・マイノリティといったテーマとの関連を調査すべく、ロシア・ソ連史の文脈を超えた比較研究・共同研究を行なっています。そのための研究会、ワークショップ等の開催に貢献したいと思います。一方で、「近くて遠い」隣国ロシアへの理解を深める活動にも貢献できます。

■主な著書、発表論文

Shohei Saito, “The Historical Impact of Eurasianism: N. S. Trubetzkoy’s Article “On Racism” and its Reception in the *Prager Presse*” in Uyama Tomohiko, ed., *Thirty Years of Crisis: Empire, Violence, and Ideology in Eurasia from the First to the Second World War* (Slavic-Eurasian Research Center, Hokkaido University, Forthcoming).

斎藤祥平「N.S. トルベツコイの思想と亡命ロシア人世界：ユーラシア主義を中心に」（北海道大学文学研究科 2014 年度博士論文）

斎藤祥平 「ユーラシア主義と民族の「起源」問題—言語学者 N.S.トルベツコイの一九三〇年代後半の著作の受容をめぐる一考察—」『ロシア史研究』第 92 号、2013 年、43—66 頁。

Shohei Saito, Евразийская альтернатива: Н.С. Трубецкой и интеллектуальная оппозиция Советскому Союзу и нацистской Германии. Форум новейшей восточноевропейской истории и культуры (Katholische Universität Eichstätt-Ingolstadt, Zentralinstitut für Mittel- und Osteuropastudien). №.1. 2012. С.181—190 (ロシア語).

斎藤祥平「オルタナティブとしてのユーラシア主義:言語学者 N. S. トルベツコイによるソ連とナチスへの思想的反応」『スラヴ研究』第 58 号、2011 年、229-252 頁

■主な特許、芸術作品等

■想定される連携先

教育機関、公的研究機関など